

本校数学博物館 Do★MATH がメディアで紹介されました！

同志社中学校数学科

朝日新聞 2017年6月27日(火) 付朝刊に、本校数学博物館 Do★MATH が紹介されました。

見て触れて 楽しく学ぶ

左京新聞

同志社中 数学博物館

国立京都国際会館の北にある同志社中学校の校舎内に、昨年5月、ちよつと変わった「博物館」がオープンした。「Do★MATH」同志社中学校 数学博物館だ。

同志社中は、英語や数学など教科ごとに専門の教室があり、生徒が移動して授業を受ける。数学博物館は、数学教室のある建物の2、3階のオープンスペース2カ所にまたがって作られていた。廊下の壁には、鉄道好きの生徒が作った鉄道のダイ



ヤグラム、天井近くには、ルート1から24までの長さ

オープンデーの数学博物館は親子連れでにぎわった＝左京区

を配入した全長5分のメジャーが貼ってある。教室には「アインシュタイン」や「ガリレオ」「伊能忠敬」などの名前がついている。「教室に移動しながら、だんだん数学を学ぶ気持ちになる。休み時間や放課後、日常で数学に触れ、興味を持ってもらいたい」と考案者の園田毅教諭(57)は話す。



5月下旬のオープンデーの日、数学博物館は中学受験を考える親子でいっぱいだった。2進法の原理を使った誕生日当てゲームの解説を教員から聞く親子、手作りパズルに夢中になる子の姿も。「かつては公式を教え込むのが教師の仕事だったが、これからは『なぜそうなるのか』を考えられる力

が大事。ヨーロッパでは、数学を生活を営むのに役立つものとして教育しています」と園田さんはいう。

「数学博物館」のアイデアは、十数年前、観光で行った台湾で、学校内にあるチョウの博物館を訪ねたのがきっかけだという。教員が収集したコレクションが1フロアいっぱいには展示されていて、「学校に博物館があったらいいな」と思った。国内外の数学や科学の博物館の展示を研究し、数学スペースで展示を開始、博物館としてお披露目することになった。「広く小中学生や市民の方にも公開して、見て触れて楽しんで、数学と科学の裾野を広げていきたい」と園田さんは話す。見学の問い合わせは電話075・781・7253(数学科)へ。(伊佐生孝子)